

「市長タウンミーティング」報告書

令和 2 年 3 月

藤井寺市

目次

I. 市長タウンミーティングの目的と概要.....	1
1. 目的.....	1
2. 概要.....	1
II. 市長タウンミーティングの実施状況.....	2
1. 開催日時及び会場.....	2
2. テーマ.....	2
3. 参加者の状況.....	2
4. 当日スケジュール.....	3
III. 参加者からの提案まとめ.....	4
1. 第1回.....	4
2. 第2回.....	12
IV. 参加者アンケート.....	26

I. 市長タウンミーティングの目的と概要

1. 目的

風通しの良い市政を市民の目線で実行していくため、市民参画の充実を図る取り組みとして、藤井寺市の輝く未来を作っていくために、将来のまちの姿へのアイデアを参加者同士で考え提案していただくワークショップ形式のタウンミーティングを実施し、市民目線に立ってニーズを施策に反映していくことを目的とする。

2. 概要

タウンミーティングは政策への反映を見据えた建設的な意見の形成を目標とし、全体の進行役と各テーブルにファシリテーターを配置するワークショップ形式により実施する。参加者はグループに分かれ、まちづくりへのアイデアを出し合い、最後に具体的な施策への提案としてまとめて、グループで発表していただく。

いただいた提案については、各部署で共有し、一つでも多く市の施策に生かせるように今後の施策への反映について検討し、方向性を決定していく。

Ⅱ. 市長タウンミーティングの実施状況

1. 開催日時及び会場

	日 時	会 場
第1回	令和2年2月8日(土) 13時30分～16時	市立市民総合体育館心技館 2階 会議室1
第2回	令和2年2月16日(日) 13時30分～16時	イオン藤井寺ショッピングセンター 2階 イオンホール

2. テーマ(共通)

「藤井寺の輝く未来をみんなで考えよう」

3. 参加者の状況

第1回 参加者数 26人(男性:17人 女性:9人)

	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代	計
人数	3人	4人	2人	6人	5人	6人	0人	26人
構成比	12%	15%	8%	23%	19%	23%	0%	100%

第2回 参加者数 28人(男性:19人 女性:9人)

	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代	計
人数	0人	3人	3人	8人	5人	7人	2人	28人
構成比	0%	11%	11%	29%	18%	25%	7%	100%

4. 当日スケジュール（両日共通）

時間	所要	内容
12:50	30	開場・受付
13:20	10	資料確認、注意事項の説明
13:30	15	開会・「市の現状と課題」について市長より説明
13:45	10	ワークショップについての説明 ・ワークショップの進め方、ルール等
13:55	70	<p>グループワーク開始</p> <p>①グループで提案するテーマを1つ決める ※5つの重点施策「風通しの良い市政・子育て・にぎわい・健康・危機管理」の分野を参考に)</p> <p>②選択したテーマについて各自の提案を付箋に書く</p> <p>③発表する提案を一つ選び、具体的にまとめていく</p> <ul style="list-style-type: none"> ・選択したテーマ ・提案名 ・誰を対象とするのか ・提案した理由 ・どのように実施するのか（手法） ・誰がやるのか（主体） ・実行に要する費用
15:05	10	（休憩）
15:15	40	グループ発表
15:55	5	閉会・市長あいさつ

※両日とも参加者を5グループに分け、各テーブルには中立的な立場でワークショップの進行をサポートするファシリテーターを配置。

Ⅲ. 参加者からの提案まとめ

1. 第1回

○提案一覧（概要）

Aグループ	世界遺産をもっとPRして市収入UP！		
	①	観光ルートの整備（子ども・高齢者・環境に優しく） ・セグウェイ、電動自転車、シェアサイクルの整備 など	
	②	市民まつりやドローン体験など、PRの場を	
	③	市民や企業との連携によるPR（古墳関連商品の作成など）	
Bグループ	市民の声が届く場を！		
	④	市民と情報共有	
	⑤	市ホームページや広報に市民の声を聞くツールの作成	
	⑥	市民参加型行政の仕組み作り	
	⑦	市民の意見を聴くシステムの構築	
	⑧	市民が愛着の持てる場所をつくる（魅力） ・住みたいまちとして選んでもらう工夫を学生と考える	
Cグループ	“今風”のBOUSAI		
	⑨	今までにない防災訓練の実施 ・子どもたちの子どもたちによる訓練（子どもたちに考えてもらう） ・四天王寺大学の学生がサポーターとして参加 ・大工や看護師など元プロの人たちと連携した訓練の実施	
		健康を通じて人が集う公園作り ～今ある広場（ふじみ緑地）を活用～	
⑩		高齢者・大人・子ども、それぞれに合わせた健康増進遊具の設置 ・高齢者と子育て世代が一緒に集える場を作る ・寄付や遊具への広告募集により資金調達	
Eグループ	観光資源を活かしたPR		
	⑪	・地域の観光資源を知ってもらう（古市古墳群） ・教育委員会（学校）や地区と協力してPR ・ドローン撮影に参加するなど、地域から世界遺産を応援	
		⑫	スポーツ誘致（イベントや試合）による活性化
		⑬	堺市との交通手段の整備

○提案詳細（要約）

【Aグループ（5人）】

選択テーマ	観光資源を活かして藤井寺にもっと活気を
提案名	世界遺産をもっとPRして市収入UP！
方法	・観光ルートの整備：高齢者、子ども、環境に優しく （セグウェイ、シェアサイクル、電動自転車などのツール） ・市民まつりやドローン体験などをPRの場に
対象	市民（税収をUPし道路・トイレ・ショップを充実する⇒市民も満足）
主体	市、市民、企業、大学、フジデライク、FRAP
費用	・お土産物屋さんを募集する ・飲食店などに参画してもらう ⇒商売をする人が潤うような仕組み
メリット	住みやすい街 藤井寺を実感してもらえる！
提案理由	市内外への世界遺産のPRが足りない まずは市民が観光資源を認識し、外へPR

（提案）

Aグループでは、藤井寺市の観光資源や世界遺産をいかにPRして市の財源に繋げるのかを考えました。それには様々な課題がありますが、世界遺産を中心とした観光資源をPRし、それを市の収入UPに繋げる、それと共に私達市民も満足できるようになる、ということを検討しました。

対象は市民です。税収をUPしてトイレや道路、飲食店やショップ等を充実させることにより、そこで暮らす市民も満足できる、そのような観光資源を活かした藤井寺にしたいと思います。実際、市民が市の観光資源をあまり知らない、PRが不足しているのではないかとということで、市民自身が観光資源を見て・行って・情報発信することが必要だと考えました。

道路を整備すると観光客やお店が集まってくるので、まず道路を整備して観光ルートを作ります。子ども達や高齢者に優しく、また環境に優しいセグウェイや電動自転車、シェアサイクルといったツールを使い、周遊しやすいという回遊性も高めていく。市民まつりや、ドローン体験等の最先端の技術も活用して、もっと観光資源をPRする場を作っているいろいろな方に藤井寺を知ってもらいます。

主体は、市、市民、企業、大学等、藤井寺に関わる人達みんなです。フジデライクやFRAPがありますが、その小売店と協力して古墳にまつわる商品や食べ物を拡充してSNSで発信しPRしていく、それによって収入UPを目指していきたい。土産物屋さんを募集したり飲食店にも参画してもらって、商売をする方々が潤う仕組みを作り、それによって住み良いまち藤井寺を実感してもらえるように、ということです。

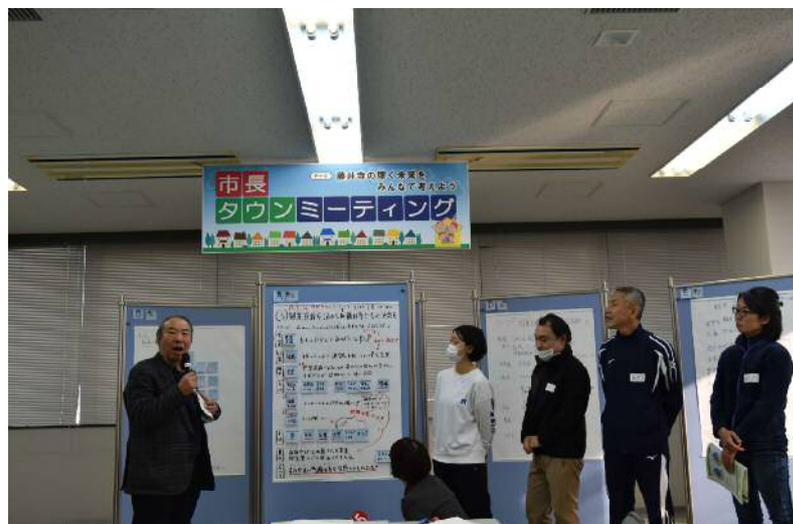
世界遺産を市民一人ひとりに認識してもらい、その素晴らしさを様々なツールで発信してもらう事を入口として、藤井寺市が遥か昔から古墳に守られてきた本当に良いまちで、災害もなく本当に住みやすいまちであるということを、市民に実感してもらい、それを他の皆さんにも知ってもらう。藤井寺に住んでもらうためのPRをしていくことが必要だと思います。

(市長コメント)

これから藤井寺市の魅力を発信してく上では、今までのような市内の商工業の発展だけではなく、観光資源を活かしていかに外部から多くの方に藤井寺市を訪れていただくかにかかっています。それには、藤井寺市の観光や魅力を外部に発信することが重要ですので、市民の皆さんも一緒に発信していただきたいと思っています。観光で課題となっているショップやお土産物の充実につきましては、行政だけでは難しい部分がありますので、民間のお店にもご協力をお願いするなど、藤井寺を訪れた皆さんが喜んでお土産物を購入していただけるような整備が必要だと思っています。

子ども達が藤井寺を訪れて楽しいと思ってもらえるように、また、遠足や修学旅行で藤井寺に来ていただくにはどうすればいいのかも含めて、観光に関して今後もご提案をいただきたいと思っています。

○グループワークの様子



【Bグループ】

選択テーマ	風通しの良い市政を市民目線で実行
提案名	市民の声が届く場を！
方法	<ul style="list-style-type: none"> ・市民との情報共有 ・HP や広報に市民の声を聞くツールを作る ・市民参加型行政の仕組みづくり ・議員任せにしない ・市民の意見を聞くシステムを作る ・市民が意見を言える場が必要 ・市民が愛着を持てる場所を作る ・若者が住み続けるまち
対象	—
主体	—
費用	—
メリット	—
提案理由	—

(提案)

Bグループは、市民の声が届く場所を作っていただきたいという提案です。

- ①議員は市民の代表で、市民の意見を代弁する場が議会ですが、市民が直接市政に対してモノを言える場が必要だと思います。市民の声を届けるチャンネルが複数あれば、市民により近い施策がとれると思います。こういう場を継続することで、市と協働する市民グループが出来ればいいと思います。
- ②今日は参加できる条件が揃っていたので参加できましたが、困難を抱えている子育ての最中の若い世代の方、体が不自由な高齢の方等の意見を拾うために、今後も別の機会や方法でタウンミーティングを実施して欲しい。
- ③今日は高齢者問題を語る事が出来ればと思っていたのですが、グループの皆さんが個人で色々な意見を持って活動されていることに感動しました。また、市民の意見を聴いていただける市民参加型のシステムや条例があることも知りました。これらをいかに取り上げていただくのが問題であると理解でき、良かったと思います。
- ④私は羽曳野市にある四天王寺大学で勤務していますが、学生が藤井寺で過ごせるような場所づくりや、彼らが藤井寺市を将来住みたいまちとして選んでもらえるような工夫を学生と共に考えていきたいと思っています。
- ⑤市長のやりたいことの中には市民参画があります。行政に聴いてもらうのではなく、こうした場でお互いの意見を交わし合うのが参画です。私は、市民の立場で市民参加条例を進めています。皆さんのいい意見も、実現するためには市長に聴いてもらう場があってこそ、初めて実現するんです。タウンミーティングも1回だけで終わらせてはいけません。市民が意見を言う場を今後も作らなければならないと考えています。

(市長コメント)

今までは市民の皆さんに市の情報が十分に伝わっていなかったと感じており、市の情報を「伝える」から「伝わる」に変えていかなければならないと考えています。市民の皆さんからの、市

政に対する様々なご提案を形にしていくことも必要だと感じています。今回、初めてタウンミーティングを開催させていただきましたが、今後も様々な形により、こういう機会を増やしていきたいと思っています。

市民の皆さんから多くのお声をいただいております、それら全てを市政に反映することは難しいですが、一つでも多く形にできるよう検討していきたいと考えています。藤井寺市は市民の皆さんのものですので、市民が住みやすいまちになるように、行政と市民の皆さんとが一緒に力を合わせて、作っていきたくと考えています。

○グループワークの様子



【Cグループ（5人）】

選択テーマ	安心の暮らしをみんなと！（防災・災害時の情報をどう知るか？）
提案名	“今風”のBOUSAI
方法	今までにない防災訓練を実施する <ul style="list-style-type: none"> ・子ども達の子ども達による訓練（子ども達に訓練を考えてもらう） ・四天王寺大学の学生さん達がサポーターとして参加 ・大工や看護師など元プロの人達に訓練に協力してもらい、スキルを教えてもらう
対象	小中高生の子ども達
主体	市、教育委員会、大学機関など
費用	雑費程度（家にあるものを皆で持ち寄って工作するイメージ）
メリット	今風（時代に合った）の自主防災組織ができる 勝手に巻き込まれる仕組み
提案理由	若い人の力に託したい

（提案）

Cグループのテーマは「安心の暮らしをみんなと」です。私達が生きていく上で一番大切な災害や防災に関して、時代に合った「今風の防災」の訓練について考えました。

対象は小中高生の子ども達です。若い人達に未来を託すということで、子ども達に生き延びてもらうための防災訓練をするという提案です。

今までにない防災訓練ということで、昔ながらの訓練は今の子ども達には分かりにくい部分があり、それが被害拡大の原因になるのではという懸念があり、訓練にキャラクターを使ったり、子ども達が分かりやすいように工夫した防災訓練を実施する、また、サポートとして、四天王寺大学の学生さん達や、大工さん、看護師さん等の元プロの人達に訓練に協力をお願いするというものです。

主体は市や教育委員会、大学機関等で、それらが連携し実施していきます。かかる費用は、皆でスコップや食料等、家にある物を持ち寄るので雑費程度を想定しています。今風の防災訓練とすることで、自主防災組織が出来て、子ども達の防災に関する意識にも影響を与え、防災意識を高めることにより、災害時の被害拡大を防げるのではと考えています。

今も地区には自主防災組織があり、防災訓練が行われていますが、参加者は高齢者が多くて若い人達の参加はあまり多くないと感じています。災害時は若い人達の力が必要になるので、若者に防災の意識を高めて欲しい。そのために、まずは子ども達自身に防災訓練について考えてもらおう、という提案が“今風の防災”です。子どもには色々な発想があって、学園祭でも少ない経費で素晴らしいものを作り上げるので、防災訓練も工夫をした良い訓練を考えてくれると思います。

そこには勿論、人生経験豊かな方々の知識や技能が必要ですので、それらを子ども達に伝えていく。子ども達と地域の人々、教育委員会や大学機関も巻き込みながら、皆でやってこうという提案です。また、訓練は小・中・高を巻き込んで一斉にやるのが、より防災への意識を持ってもらうために大切だと思いますので、市が動き、是非そうしていただきたいです。

(市長コメント)

最近は台風等による風水害が発生し、防災に関して不安を感じておられる方が多いと思います。「今風の防災」というご提案で、私も二十数年間消防団で活動し地域の防災訓練にも参加しておりましたが、今は三角巾の代わりにレジ袋を使うなど新しい内容に変わっている部分もあります。今後はそういう時代にあった訓練に内容を見直すことも必要ではと感じております。特に、子ども達には防災への意識を持ってもらいたい。地区の防災訓練についても、やはり若い方達にも多く参加していただけるように、皆さんと一緒に考えていきたいと思っています。

災害時の情報発信では SNS による情報発信が効果的だと言われていますが、そういう情報は高齢者の方に届きにくいという課題もあります。自助・公助・共助のそれぞれの部分で、災害時に何が出来るかを市民の皆さんや若い方達のご意見もお聞きしながら、安心なまちに向けて取り組んでいきたいと思っています。

○グループワークの様子



【Dグループ】

選択テーマ	健康を通じて人が集う公園作り
提案名	今ある広場（ふじみ緑地）を活用する
方法	高齢者、大人、子どもそれぞれに合わせた健康増進遊具の設置
対象	全市民
主体	市（民間事業者）、市民
費用	市（民間事業者）、市民の寄付、広告、遊具への名入れ
メリット	<ul style="list-style-type: none"> ・老若男女が集う場ができる（井戸端会議、コミュニティ） ・子育て世代の流入 ・市民が健康で生き生きと暮らせる
提案理由	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの体力低下 ・子どもの遊ぶ場所がない ・高齢者と子どものコミュニケーションが少ない ・大人も体を動かせる場所が少ない

（提案）

Dグループのテーマは「健康を通じて人が集う公園作り」です。「子育てをしっかりと安心して子どもが育てられるまち」と、「高齢者が安心して人と交流しながら暮らせる住みよいまち」という2つの意見が出たので、高齢者の世代と若い子育ての世代と一緒に集える場所として、今あるふじみ緑地を活用して色々な健康増進の遊具を揃えた公園を作ってはどうか、と考えました。

具体的な遊具ですが、吹田市に建都レールサイド公園という老若男女が集まって活動できる大きい公園があります。その公園は、かなり遊具が揃っていて、運動する高齢の方々が遊びに来た子ども達に逆上がりを教える、といった世代間の交流もされています。

提案の理由ですが、今、子どもの体力低下や、子どもが遊ぶ場所がない、高齢者と子ども達のコミュニケーションが少ない等の課題がありますので、ふじみ緑地にいろいろな世代が使える健康増進の遊具を設置すれば、それらの解決にも繋がると思います。主体は市と市民です。かかる費用は、寄付や広告、遊具への名入れ等で資金を集めて運営します。商店街のお店からの寄付や、寄贈者の名前の入ったプレートをつける等により、コストの軽減に繋がると考えています。メリットは、井戸端会議や子育て世代の意見交換等の場所ができる、老若男女が集える場所が出来るということと、健康増進により市民が生き生きと暮らすまちになる、ということです。

今、公園は緑地になっています。遊具を置くとかガをするからという理由で、今は遊具を撤去されているのかもしれませんが、責任問題の話は置いておいて、いろんな世代が利用できる健康増進の遊具があれば、人が集えて健康増進にもなります。先ほどの吹田市の公園では立派な遊具が無料で使えるそうなので、藤井寺市もそうなって欲しいと思います。藤井寺はいいまちだと思いますが、子どもがちょっとしたボール遊びができる場所や遊ぶ場所が少ないと感じますので、こういう公園があればいいと思います。

(市長コメント)

公園につきましては、小学生のお子さんをお持ちのお母さんからは、「藤井寺市には子ども達がボール遊びをできる公園がない」というお話をお聞きしています。もっと小さなお子さんを育てていらっしゃるお母さんからは、「子どもが楽しく遊べる安心な公園を」というご希望もお聞きしています。やはり、公園に関しましては、市民の皆さんから様々なお声をいただいています。これらのご意見に対して、今後、前向きにどこまで出来るのかという課題はありますが、今日のように寄付やスポンサーを集めるというご提案など、今後も皆さんからいろいろなお知恵をお借りしたいと思います。

子ども達が楽しく遊べる公園が一つあることで、「このまちはいいな」と、他市の事例では公園がまちの顔になっている所もあります。そういうパワーのある良い公園を作っていければと思います。

○グループワークの様子



【E グループ】

選択テーマ	観光資源を生かして藤井寺にもっと活気を
提案名	観光資源を活かした PR
方法	地域の観光資源を知ってもらう <ul style="list-style-type: none"> ・教育委員会、学校や地区と協力して観光を PR ・ドローン撮影に参加するなど、地域から世界遺産を応援する スポーツ誘致（イベントや試合）による活性化
対象	学校と地区町会
主体	－
費用	10 万円程度
メリット	－
提案理由	地域の子どもと大人に地域のことを知ってもらう

（提案）

E グループのテーマは「観光資源を生かして藤井寺をもっと活気づける」です。そのためには、学校と地区の町会を巻き込むことが必要です。観光資源を活かしてまちを活気づける、それには、私達市民、その中には各地域の町会がある、そういう地域の人々に観光の素晴らしさを知ってもらう必要があります。そこで、まずは古市古墳群を知ってもらうために、地域の大人だけでなく子ども達にも一緒に協力してもらう。具体的にいうと、ドローンで古市古墳群を撮影するイベントに、大人と子ども達が一緒に参加して、地域を知ってもらう。地域の皆さんに世界遺産を応援してもらい、その素晴らしさを知ってもらう。そのような市民の取組を広く内外にPRし発信することで、その取組がメディアに取り上げられ、藤井寺市が報道される可能性もある。校庭の利用など、教育委員会や学校にも協力してもらい、地域一体となってまちを活性化。全ての人々に観光に対する意識を持ってもらうことが大切です。

観光にはもう一つ、「スポーツ誘致をする」という提案があります。藤井寺市には体育館やスポーツセンターがあり、西名阪自動車道も近いです。羽曳野市ではTリーグ（卓球）が開催されていますが、藤井寺もそういうスポーツイベントを誘致・開催して、スポーツ事業を活性化しようという提案です。大会を誘致すると、各県や各市からどんどん人が集まります。また、メディアをたくさん呼びPRすることも必要だと思います。

付け加えますと、私は堺市で働いていますが、藤井寺と堺との交通には問題があると思います。観光バスは確かにありますが、閑古鳥感はあるし、そもそも藤井寺から堺に通う際に生活としての交通の便が良くありません。堺にはシェアサイクルがありますので、それらをもっと広げられないかと思います。横軸の交通の便を考えなければ、観光に取り組んでも人が来ないかも知れません。検討していただきたいと思います。

（市長コメント）

観光は今、藤井寺市が一番力を入れなければならない部分だと考えています。今年の7月は、百舌鳥・古市古墳群が世界文化遺産に登録されてから一周年記念を迎えます。それに向けて、堺市長や羽曳野市長とも一緒に盛り上げていこうというお話も出ています。南河内地域の市町村と

も横の連携を図りながらやっていかなければならないと考えています。健康面も含めたサイクリングのコースの整備も進めていきたいと思っています。

ドローン撮影のお話をいただきましたが、例えばスマートフォンのライト機能を使い、夜に皆で古墳の形を作って上空からドローンで撮影すればきれいだろうな、とも思います。そういうことを、学生さん達の若い発想もいただいて、市民の皆さんと一緒に形作っていきたいと思っています。また、具体的なご提案がございましたらお聴かせいただければと思います。スポーツに関しましても藤井寺は面白い事をやっているな、と感じていただけるような取組を検討していきたいと考えています。

○グループワークの様子



2. 第2回

○提案一覧（概要）

		いざという時、助け合える関係性を作ろう！
Aグループ	①	地域コミュニティの活用 ・町会をむかしながらの関係性にする ・ゆるい繋がりをつくる
	②	いろんなアイデアを持った市民を活かすような場・仕組み作り
		心配しとーない街 ～危機管理するために 災害編～
Bグループ	③	衛生面：トイレ・入浴場所の確保
	④	ペットや子どもを預かることができる人を登録
	⑤	色分けハザードマップを作る（分かりやすい）
	⑥	災害アプリの作成
	⑦	避難所：同じ立場の人が集まれるように区切る （ペット・子ども・障害者）
	⑧	防災無線：サイレン音の使い分け（避難判別）
		共助・助け合いを促進する媒体・情報発信
Cグループ	⑨	「私は困っている」と言いやすい雰囲気を作る
	⑩	広報紙に共助やボランティア情報コーナーを作成 ・ボランティア情報 ・「こんなお手伝いがきます」という情報 など
		シェアサイクルを活用したまちづくり！
Dグループ	⑩	プロジェクトチームでの検討
	⑪	自転車の旅ルートコンテストの開催（市民が審査員）
	⑫	市・シェアサイクルメーカー・市民との協働
		古墳を頂いたおすプロジェクト
Eグループ	⑬	古墳での定期的な催し・イベントの開催 ・フリーマーケット、のみの市、ラジオ体操 など
	⑭	まちなかトイレの設置（空き家の活用）
	⑮	案内看板の作成 ・住宅の壁に設置（市民への協力依頼） ・内容は市民から募集（オリジナリティー）

○提案詳細

【Aグループ】

選択テーマ	人との繋がりを作ってすべての人が安心して暮らせるまちに
提案名	いざという時、助け合える関係性を作ろう！（防災・減災）
方法	地域コミュニティの活用 <ul style="list-style-type: none"> ・町会を昔ながらの関係性にする ・ゆるい繋がりをつくる ・小さいことをひとつひとつやっていきたい 行政には市民を活かすような場や仕組みを作って欲しい
対象	全市民（赤ちゃんから高齢者まで、一つの世代だけではない）
主体	市民・市・企業
費用	小
メリット	市民同士が知り合いになれば、いざという時お互いに心配し、助け合える（防災・減災につながる） 人との繋がりが安心した暮らしに繋がる
提案理由	知り合いでなければ助け合うことはできない 世代間の交流が大切

（提案）

Aグループは、観光資源・防災・危機管理・高齢者の健康など、テーマを一つに絞らず、人との繋がりを作ってすべての人が安心して暮らせるまちとしました。提案名は、「いざという時、助け合える関係性を作ろう」とし、互いに助け合う部分に防災や減災の要素を込めました。対象は全ての市民で、赤ちゃんから高齢者まで全ての世代が対象です。

理由ですが、知り合いでなければ助け合うことはできない、世代間の交流が大切、としています。私達はいざという時、顔を知っていれば「あの人大丈夫かな？」と思い浮かべますが、知らない人には意識が向かない。そこで、知っている人が増えれば増えるほど、助け合いや共助の部分がどんどん機能するようになる。今機能していないように見えているのは、町会など社会の仕組みとして本来持っていたはずの繋がりが、どんどん無くなっているからです。その、本来あるはずのものを使おうという発想です。

方法は、町会を昔ながらの関係性にする、緩い繋がりを作る。全ての市民が対象になる緩い繋がりが必ずあって、それは地域のコミュニティだと思います。そういう緩いけれども強い心の繋がりの部分を、もっと見直して活かすべきです。小さいことから一つひとつやっていく、例えば住んでいる地域にゴミを出す場所がありますが、それを地域の仕組みとして皆が知っているまち・皆がいわゆる町会にしまえば、汚れているのを見かけた時に、掃除をしてきれいにしようとなりやすい。市民、市、企業、私達自身が主体となり、自分の住む地域を中心に、もう一度、人の繋がりの部分などコミュニティを見直すことが一番大事だと思います。

費用はごく小です。地域の繋がりによって、あらゆる世代間が互いに心配するようになれば、高齢者は地域の子も達を心配する役割を見つけ、親御さんは隣近所の人の子もを見てくれるので安心と信頼関係ができる。高齢者は心の張り合いを得るので元気に暮らすことができ、医療

費が下がる。保育の部分では、地域で子どもを育てるといった共助の関係が出来上がれば、子どもに費用はかからないかもしれない。今後、保育や高齢者にかかる歳出は増加すると言われていますが、必ずしもそうではないかもしれない。そうなれば、選択と集中で本当に費用をかけるべき部分はどこなのかを、本気で考えなければならないと思います。

メリットについては、市民同士が知り合いになれば、いざという時互いに心配し、助け合えるまちになります。防災や高齢者の健康にもメリットがある。一生懸命働いている子育て世代の方も、安心して働くことができ生産性が上がるというメリットがあります。

人と人の繋がりが私達の日々の暮らしの中で安心して暮らせる繋がりに変わり、それが暮らしやすいまちへと繋がっていくのではないかと考えました。

あと、行政には、もっと市民を活かす場を作って欲しい。市民の中には、防災に限らず、先ほどの保育の話に関しても、いろんなアイデアを持った方がいると思います。そういうアイデアを上手く引き出し、それを実行に移す。行政ができなくても、そのアイデアを持っている人達にやってもらう。行政にはそういう仕組み作りをお願いしたいです。

(市長コメント)

今、人の繋がりの希薄化や、町会に入らないという方がいらっしゃるというような現状があり、その中で、やはり皆で結束していこう、という事が一つのポイントだと感じています。

最近、自助・共助・公助の間にもう一つ、近所が入っていると言われていています。これは防災の面だけではなく、まちづくり全体に言えることだと思います。向こう三軒両隣、共助と自助の間のもう少しコンパクトな部分につきましても、お聞かせいただいたように連携がとれて、皆がお互いに気配りすることが出来れば、多くの課題が解決するのではと考えています。少子高齢化の時代において、将来的には行政も人材難になり職員の数が減少してくることもあろうかと思えます。市民の皆さんの中には、定年後の方々も含めてまだまだ現役という方が多くいらっしゃいますので、その方々のお力を拝借しながら協働によりまちを作っていくのが、今の自治体の形だと言われていています。藤井寺市もそのように取り組んでいかなければならないと考えていますので、よろしくお願い申し上げます。

○グループワークの様子



【Bグループ】

選択テーマ	危機管理するために
提案名	心配しとーない街
方法	衛生面：トイレや入浴場所の確保 ペットや子どもを預かることができる人を登録 色分けハザードマップを作る（子どももわかる） 「助けられます」ゼッケンを作る 藤井寺市の災害情報アプリを作る 避難所：同じ立場の人が集まれるように区切る（グルーピング） 防災無線：「そろそろ避難を」→「絶対避難！」（サイレン音で判別）
対象	市民
主体	旗ふり：市 参画：市民
費用	人件費+α
メリット	準備をすることで安心して住める！
提案理由	ハザードマップが知られていない 目の不自由な人が情報をどう得るか？ 障害がある人・ペットなど避難所内での心配 防災無線の避難放送が聞こえなかった 衛生面が心配（トイレ・お風呂など） 女性の性被害が心配 避難所が知られているか？ 拠点病院がない

（提案）

テーマは危機管理ということで、災害時のことを中心に話をしました。提案名は「心配しとーない街」、心配せずに暮らせるまちへの提案です。

災害時のことを話し合った中で、気になる事がいくつか出てきました。藤井寺市のハザードマップですが、大変見づらく、障害をお持ちの方だと見ても全くわからないことがあります。例えば避難所の地域を色分けしたマップにすれば、見やすく、わかりやすくなると思います。防災無線も大雨や強風の時は放送が聞こえにくく、避難が必要なのが分かりにくい。そこで、言葉ではなく音を使って、例えばこの音が鳴れば避難、この音が鳴れば全員すぐ避難するなど、段階的に音を使い分ければスムーズに避難できるのではないかと考えました。

避難所にもいろいろな心配があり、ペットを飼っている人や小さい子どもがいる人、障害をお持ちの人など、様々な不安を抱えている方達があります。避難が長期化するような時は、同じ不安を持つ立場の人でグルーピングをした避難所の検討や、女性が被害に遭わないように配慮した避難所についても、今後は検討が必要ではないかと思ひます。衛生面では、災害時はトイレが不足したり入浴が出来ないなど、衛生面の不安がありますので、やはり衛生の部分には費用をかけて、十分に確保するよう検討していただきたいと思ひます。また、災害時は情報がなかなか行き届かないので、迅速に伝えるために災害時に特化した藤井寺市独自のアプリがあればと思ひます。

これらの旗振りは行政にお願いしたいです。市民は参画でどんどん参加します。十分に事前準備をしておけばスムーズに実行できると思います。

費用面では、市の職員の人件費とプラスアルファの費用で足りると思います。また、災害時には「私はこんなお手伝いができる」という話がグループ内でも出ましたので、そういうことも事前にまとめておけば、いざというとき迅速に行動できます。私達が安心して暮らすためには事前準備をしっかりとやるべきだという提案です。

今回は災害の話が多く出ましたが、コロナウイルスなど感染症も危機管理だと思います。藤井寺市民病院で診療を受けた際に、実際に中国の方と接することがあった職業だったのに聞かれなかったというようなお話もありましたので、危機意識を高く持っていただいて、できれば今後拠点となるような病院が藤井寺にもあればと思います。

(市長コメント)

危機管理の問題は、この辺りは昔から古墳があるから地震は大丈夫とも言われていましたが、最近台風や風水害の被害が本当に多く発生しており、皆さんの意識も変わってきていると感じています。ハザードマップの見直しについては、今後、市民の皆さんの声もいただきながら作っていきたいと思います。藤井寺市は防犯カメラが増えて、ひったくり等の防犯的な部分は良くなってきていますけれども、災害や感染症等といった様々な危機事象がありますので、その辺に向けては、皆さんに安心していただけるように進めていきたいと考えています。

ハザードマップや避難所でのペットの問題など、具体的なお話をいただきました。僕も消防団で避難訓練や火災時の訓練等の様々な訓練をやりましたが、実際に避難所が開設した場合のブルーシートの張り方や物資の運び方、そこから先の訓練などまだ十分ではないと感じた部分もあり、そういう事も含めて取り組んでいきたいと考えています。

○グループワークの様子



【C グループ】

選択テーマ	健康で生き生きと
提案名	共助・助け合いを促進する媒体・情報発信
方法	「私、困っている」を言いやすく！ 共助やボランティアの情報を広報紙に掲載する
対象	市内の困っている人・助けが必要な人 助けたい人
主体	ボランティアセンターと市の連携（or 新設団体）
費用	小
メリット	市民の主体性、地域活動の活性化 高齢者が生き生きと ⇒ 医療費削減、 暮らしやすいまち・住みたいまち（特徴）
提案理由	助けていいかわからない 困っているかわからない マッチングコーディネーターがうまくいっていない 市民がバラバラ

（提案）

C グループは「健康」の分野を選びました。提案は、共助と助け合いを促進して、共助やボランティア活動を推進するために必要な媒体や情報発信について考えました。対象は、市内の困っている人々と、助けたいと思っている人々です。

私達は、身近に困っている人・助けが必要な人がいても、その人が困っているのか、助けが必要なのか分からないので、共助や助け合いが進まないのではないかと考えました。それを解決するために、「私は困っている」と言いやすいような雰囲気を作ることと、「私はこういうお手伝いができる」という情報を発信ができる場づくりが必要ではないかと考えました。発信の場としては、高齢者はスマートフォンの操作が分からない方もいるので、身近な広報紙に情報を掲載するコーナーを作り、広報紙を情報発信の場とする。今もあるとは思いますが、まだまだ量・質・頻度が不十分だと思うので、広報紙にそういった情報を充実させることができればと思います。

誰がやるのかについては、広報紙は市が作りますが、ボランティアのコーディネーターは、本来は社会福祉協議会のボランティアセンターがやるべきだと思いますが、現状はマンパワーの問題で難しい部分があるそうなので、市がボランティアセンターの活動をバックアップする、また、ボランティアがボランティアを管理するような仕組みを作っていく、そういう取組によって情報発信を充実させ共助を進めていくという結論になりました。

これらの費用ですが、こういう活動なのでさほどかからないのではと思います、「小」としていません。メリットとしては、今住んでいる私達もそうですが、藤井寺が暮らしやすいまちになれば、人口の減少に歯止めをかけて、どんどん人が集まってくるまちになります。そのことが活気あるまちへと繋がっていくのではと考えて、こういう意見を提案させていただきました。

目標：ボランティア活動大阪一

漠然としてもわからないので、「ボランティア活動大阪一」を目標に掲げようじゃないか、ということになりました。

(市長コメント)

市民の皆さんが安心・安全に暮らしていくために、一体何が 필요한のか、また、そのために市民の立場で自分達にできることをどう活かしていけばいいのか、という事を考えていただいて、本当に嬉しく思います。ボランティア活動大阪一番、藤井寺がそういう住みよいまちとなるように、市として協力できる部分は協力させていただきながら、社会福祉協議会のボランティアセンターの現状や今後の在り方の部分も含めまして、いろいろ検討しながら、共助やボランティア活動を促進して進めていきたいと考えています。市民の皆さんが本当に暮らしやすいまちとなるように、様々な方々の目線や角度からのご指摘やご意見、ご協力をいただきながら取り組んでいきたいと思っておりますので、よろしくお願い申し上げます。

○グループワークの様子



【Dグループ（6人）】

選択テーマ	観光資源を活かして藤井寺にもっと活気を！
提案名	シェアサイクルを活用したまちづくり！
方法	プロジェクトチームを作る（皆で考える） ・皆が乗りやすい絵になるサイクル ・サイクル設置スポットの検討、ルール作り ルートコンテストの実施（市民が審査員） ・審査員が実際に自転車で回って投票する
対象	子どもから大人まで（外国人の来訪者も含む）
主体	市・シェアサイクルのメーカー・市民
費用	民間投資をベースに利用料で採算をとっていく
提案理由	情報がバラバラ⇒情報を集める手段として「シェアサイクル導入」を行う まちを“面”で見せていく 藤井寺ならではの強み（コンパクトシティ）を活かせる

（提案）

Dグループのテーマは、観光資源の話になります。提案は「シェアサイクルを活用したまちづくり」です。もっと活気があり、訪れた人が楽しく笑顔になれる藤井寺市になればいいな、ということを話し合いました。

提案した理由ですが、今、市・企業・市民が実施しているイベントが多数ありますが、そういう情報がすごくバラバラになっていて一元的に見ることができない。それらを繋ぐツールとして、シェアサイクルが面白いのではと考えました。そしてまちを面で見せていく。特に、「小さなまち」という部分は藤井寺ならではの強みだと思います。先日、子供と一緒に自転車で藤井寺市の外を一周回った時に2時間くらいで回ることができて、「すごい！これができるまちって他にないよね」ということがありました。例えば大阪市で同じようなことをすればすごく時間がかかるので、コンパクトなまちという部分を活かせることにもなるのではと思います。

方法は、プロジェクトチームを作り、皆で自転車の設置場所等を検討する。自転車も普通のもではなくて、観光客が古墳を背景に自転車と一緒に写真をとってSNSに投稿し、「カッコいいだろ」と自慢できるような絵になるデザインのものがいいと思います。また、自転車の旅ルートのコンテストを企画して、こういうルート回って、ここでご飯を食べて、夕日を見て帰ってきたら最高だった、というお勧めのルートを広く募集して、市民に審査員になってもらい、実際に自転車で回って投票してもらおう等すれば楽しいと思います。自転車なので、ルールや安全対策についても皆で考える必要があります。

対象は、子供から大人まで、外国人の方も誰でもです。市とシェアサイクルのメーカー、市民が主体となって行います。コストは、メーカーに投資していただくか、仕事としてやっていただくなど民間の投資をベースにして、利用者からの利用料でペイできればと思います。まちで行われている様々なイベントを、縦に繋いで活かしていくツールとして、シェアサイクルが面白いのではと思います。

(市長コメント)

観光の部分でのシェアサイクルにつきましては、市でも一部検討を行っているところで、ご提案いただいた SNS 映えするデザインの自転車につきましても、考えていければと思います。

シェアサイクルについては、堺市や羽曳野市とも話が出ていまして、藤井寺市内だけではなく古市や堺まで行って乗り捨てが出来ればという観光面でのお話もあります。営業担当の方が企業を訪問する時にレンタサイクルを利用されるという話もお聞きしますので、シェアサイクルが上手く繋がっていけば、通勤・通学にも使えるので駐輪対策にもなるのではと思います。できるだけ形にしていけるように、また、上手く観光にも繋げていければと思います。

ルートのコネクトや、観光のルートマップ、アプリ等によって情報を発信し、それがまた他に繋がって、軽いサイクリングが健康増進にも繋がっていくなど、そういうふう発展していければと思います。

○グループワークの様子



【E グループ】

選択テーマ	観光資源を活かして藤井寺にもっと活気を！
提案名	古墳を使いたおすプロジェクト
方法	5年後・10年後を見据え、今できることから始める <ul style="list-style-type: none"> ・まず、古墳の中で太極拳・蚤の市など ・空き家のトイレの活用
対象	まず市民 将来的に定住人口が増える・元気なお年寄りが増える
主体	基本は市（観光課？観光協会？）検討の「場」を作る プログラムや実行部隊は団体・グループ・NPO など
費用	今ある資源を活かす <ul style="list-style-type: none"> ・空き家のトイレ活用、お金以外のモノの提供、地域からの寄付？ ・まちなか看板の募集（子どもの絵） ・住民に協力を依頼し看板を住宅にかけてもらう ・広報 SNS
KEY WORD	あるものを活かす（空き家の活用） オンリー1世界遺産・古墳の中でいろいろできる!!（商店街も！） 高齢者も参加できる
メリット	市民が楽しむ → 訪れた人達と交流 → 住みよいまちになる!! 例）ここに住んでたらフリマ「フジカリ」in 古墳 定住人口が増える 高齢者が参加できる・元気な高齢者が増える!!（高齢者問題の解決）
提案理由	かつての元気な藤井寺 今いろいろな魅力的なものがなくなった！ 古墳と住宅が隣接。これこそ魅力！ 入れる・活用できる世界遺産 空き家・商店街を活用したい

（提案）

E グループは、観光資源を活かして元気だった藤井寺を取り戻したい、そこにお年寄りも参加できるように、ということで、提案名は古墳を使いたおすプロジェクトとしました。

「使いたおす古墳」とは、入れる古墳がある、というのが藤井寺のいいところだと思うので、それを活かし、市民が楽しめるフリーマーケットや蚤の市などを古墳でやろう、というものです。高齢者の皆さんは家にこもりがちになるので、ご近所やお隣の方々が声をかけて、朝の古墳で皆が集まり一緒に太極拳やラジオ体操をするなど、古墳での集まりに参加していただき、体を動かすことで元気になっていただく。高齢者が元気になれば介護保険等の費用の削減に繋がります。そういうふうに、古墳の中で定期的にイベントが開催できる場所や、高齢の方達が集まれる場所があればいいな、と考えました。

古墳を使いたおすということの中には、今ある資源を使いたおすという事も含んでいます。毎

週古墳で蚤の市がある、毎週高齢者の方がラジオ体操をやっているというように、市民が古墳を使いおして楽しんでいる中に観光客や市民以外の方も参加し、市民と交流してもらおう。堺市と違って、観光入込数よりも交流人口数を増やしていくという地道な戦略が藤井寺市には向いているのではと思います。

人がたくさん来ても、トイレやカフェも売店もないという問題があります。その解決策として、箱物行政で新しくトイレを作るのではなく、今ある空き家を活用してはどうでしょうか。藤井寺市の入れる古墳の周辺には住宅があり、古墳のすぐ目の前には民家があります。その中の空き家を「まちなかトイレ」として開放し、僅かな賃貸料で借用させていただいて、土日だけでも家主の方をお願いして、今日はまちなかトイレやっています、という旗を立ててもらい、訪れた人が入れるというルールにして、家主の方からお茶の1杯などおもてなしをしていただく。そういう温かさが藤井寺だと思います。

古墳を訪れる人の中には道に迷う方もいると思うので道案内が必要になります。看板作成は費用がかかるので、古墳へ行く道中の住宅の皆さんに協力をお願いして、まちなか看板をつけさせていただく。まちなか看板は、幼稚園や保育園の子ども達や小学生に絵を描いてもらうなどオリジナリティ感あるものにすれば、費用が削減でき、藤井寺のアピールもできます。そんなふうに、住民の皆さんの協力をいただきやっつけなければと思います。

(市長コメント)

他所と違って藤井寺には入れる古墳があり、皆さんがそこで楽しめるというのは、一つの強みだと考えています。市民の皆さんと観光客の方々が一緒に集える世界遺産になるよう、活用していくことができればと思います。シュラホールも、あのフォルムがインスタ映えするというところで、外国の方々に好評をいただいていますので、そこを一つの観光拠点にすることも検討しています。施設を利用されている方と、これから訪れる観光客の方が、どちらも楽しみ、交流もしていただけるようなアイデアがあればと思っています。

高齢者の方も、古墳のあの青空の下で皆さんと一緒に楽しめば生き生きと健康になれると思います。自分もそういう「三方よし」という考え方が好きで、提案をしていくと次々と新しい発想が生まれ、面白いことが出来る。今回のご提案も、空き家の活用、健康増進、観光客、市民の方々が協力して看板を作って道案内も出来るという、皆が良くなる面白いお話だと思います。実現できる部分は一つでも形にしていければと思います。

○グループワークの様子



IV. 参加者アンケート

<回答者数>

■令和2年2月 8日（土）：回答者22人／参加者26人

■令和2年2月16日（日）：回答者25人／参加者28人

1. 今回の「タウンミーティング」を何で知りましたか（複数回答）

項目	2月8日	2月16日	合計
広報紙	13人	13人	26人
市ホームページ	1人	1人	2人
チラシ	3人	5人	8人
市Facebook	2人	0人	2人
知人	5人	6人	11人
その他	2人	2人	4人

※その他：大学、市職員に聞いた、区長会

2. 参加した動機（複数回答）

項目	2月8日	2月16日	合計
テーマに関心がある	7人	6人	13人
市長と話がしたい	3人	3人	6人
将来の藤井寺市について考えてみたい	12人	18人	30人
知人に誘われた	6人	3人	9人
その他	1人	2人	3人

※その他：藤井寺をもっと知りたい

3. 今回のワークショップ形式のタウンミーティングは満足できましたか

項目	2月8日	2月16日	合計
満足した	13人	13人	26人
（理由） ・多くの人の考えや意見を聞くことができた。 ・色々な世代の方と話ができてとても楽しかった。 ・こういう場を作ってくださったことに感謝。			
どちらかといえば満足した	5人	8人	13人
（理由） ・テーマを一つに絞らないといけないところが少し残念だった。 ・いろんなアイデアがあり勉強になった。			
どちらともいえない	2人	2人	4人
どちらかといえば不満	1人	1人	2人

(理由)			
<ul style="list-style-type: none"> ・子育て世代の当事者として言いたいことをあまり言えなかったが、他のグループでは出ていて良かった。熱心な人が多くいることが分かったので良かった。 ・市長へ言いたかったことが表現できなかった。 			
不満	0人	0人	0人

4. ワークショップ形式のタウンミーティングを開催する場合、また参加したいと思いますか

項目	2月8日	2月16日	合計
機会があれば参加したい	21人	23人	44人
(理由)			
<ul style="list-style-type: none"> ・もっと多くの人とふれあいたい。 ・思い(考え)が伝わらなかったこともあったので。 			
どちらかといえば参加したい	0人	0人	0人
どちらともいえない	1人	2人	3人
(理由)			
<ul style="list-style-type: none"> ・テーマを絞ったものにしてほしい。 			
あまり参加したいとは思わない	0人	0人	0人
参加したくない	0人	0人	0人

5. 今後タウンミーティングを開催する場合、どのようなテーマがいいと思いますか

(自由回答)

- ・住みよいまち
- ・市民参加条例
- ・市の活性化
- ・色々なテーマ別に
- ・藤井寺のお土産開発
- ・藤井寺に新しいコンテンツを取り入れる
- ・子育て世代に優しいまちづくり(ある程度テーマを絞る方が意見がまとまると思う)
- ・子ども達とタウンミーティングをしてほしい(夏休み等の企画で)
- ・百舌鳥に知名度で勝つには
- ・道路整備について
- ・テーマごとにグループを分けるのは一つの方法か
- ・建物と道路の整備など、危機管理について
- ・もう少し絞ったほうが効率的に行えたと思う
- ・藤井寺市全域(各地域)の特徴
- ・市民活動を担えるような組織
- ・今回同様テーブル設定でよいと思う
- ・環境に配慮したまちづくり
- ・また同じような感じでお願いします
- ・環境、ゴミ問題について
- ・元気な藤井寺
- ・どのようなテーマでも良いが、テーマを絞ってあった方が参加しやすいと思う
- ・定住促進
- ・もっと具体的項目が出せるように

- 重点5項目で良い、回数を増やすことが大事だと思う
- 戦略づくり
- 危機管理についてもっと追及していければ
- ぐらしやすいまちづくり
- 安心して暮らせる危機管理

6. 今回のタウンミーティングの時間配分についての感想をお聞かせください

■藤井寺市の現状と課題について（市長より説明）

項目	2月8日	2月16日	合計
ちょうど良かった	15人	19人	34人
時間が長すぎる	0人	0人	0人
もっと時間をとって欲しかった	4人	4人	8人
その他	0人	1人	1人

※その他：初回なのでこれで良かった。

■ワークショップについて（グループワーク・発表）

項目	2月8日	2月16日	合計
ちょうど良かった	13人	20人	33人
時間が長すぎる	0人	1人	1人
もっと時間をとって欲しかった	7人	3人	10人
その他	1人	0人	1人

※その他：テーマが多い。3点ぐらいでは？

もう少しグループの多様性が保障されても良かったと思う。

7. その他ご意見・ご感想

- 市長がとても誠実に聞いてくれたので、チームの提案の意義があったと感じられて良かった。ただ、私は個人的に「子育てするなら藤井寺」について特に話し合いたかったので、各個人がテーマのテーブルを選べるようにしていただきたいかった。グループワークの最中に、マイクを通して「後何分です・・・」と案内があり、グループワークの会話が聞き取りづらくなり、頻りにマイクアナウンスがあったこともストレスだった。参加して良かった。またの企画を楽しみにしています。
- 1. 子ども安全見守り隊プロジェクトの設置、広報にて公募する。
 2. 放課後、校内を開放する(5時まで)、体育・文化・学習クラブの充実化、子ども達とのコミュニケーションを図る。
 3. 各自治会に見守り隊プロジェクト隊の設置、公民館の活用。
 4. 公共施設の活用(イベント等)。
- いろんな年代の人と話が出来て良かった。市長が地区会館に出向いて実施すればもっとたくさんの方が集まると思う。若い人の意見を取り入れる場がもっと欲しい。発表も若い人たちに。
 ○いろんな年代層の方とお話が出来て大変良かった。
 ○楽しく参加できた。また時間が合えば参加したい。

○今回は少し時間が短く思っていて、それより早く終わってしまった。個々活動をしていて、色々考えて行動している方々がいると改めて考えさせられた。もう少し自分自身が市政などの背景と理解度を高めていけたらと思いつき機会となった。

○本日はありがとうございました。

○・病児保育の事業所がない、子どもを産む施設が少ない→周産期医療を充実して欲しい。

- ・児童館が少ない。
- ・道路が狭く、トラックの往来も多いので、子どもを歩かせるのが心配。
- ・障害者施策・制度が近隣他市より遅れている。
- ・障害者基幹相談支援センターがないのは大阪府下8市で、藤井寺市も含まれている。
- ・相談支援、自殺対策を民間委託しているが、委託された事業所は職員の退職が目立ってきている。行政の責任が曖昧になっているのではないか。
- ・竹内街道があるから百舌鳥・古市古墳群の観光客も来るはずだが、道の整備をしない限り観光客は来ないと思う。

○目に見える形に結び付けていただきたいと思う。

○各グループ報告を受けた後に、その都度市長からの意見も出され良かったと思う。

○土師ノ里一羽曳野市一堺のバスのお知らせを、もっとしていただきたい。

○お茶の用意が本当にありがたかったです。

○1～5まで皆さんの考えていることがわかって楽しかった。一つ一つがとても大切なことだった。皆さんと一緒に考えることで、不安なども軽くなると思った。

【良かったと感じた提案】

各グループの提案内容を聞いて一番良かったと感じたもの

(各日の参加者・ファシリテーターによる任意投票)

・2月8日実施分 (票)

Aグループ	Bグループ	Cグループ	Dグループ	Eグループ
7	8	5	7	1

・2月16日実施分 (票)

Aグループ	Bグループ	Cグループ	Dグループ	Eグループ
4	5	5	10	7